

A BRAND NEW CHAPTER @KOCHI

TOSABUSHI

とさぶし



No
42



TAKE FREE



牧野
だんご
さん
すき!

特集

牧野さん だいすき!

高知県出身の植物分類学者、牧野富太郎博士。

県民から今も昔も「牧野さん」と呼ばれ

親しまれる博士の魅力は、

どんなところにあるのだろう？

博士に魅せられてそれぞれの

活動に打ち込むさまざまな

人たちに「だいすき」を聞いた。

牧野博士への
好きを
集めました!



なぜ
牧野「さん」
と呼ぶ？

文久2年（1862年）に生まれ、昭和32年に亡くなるまで、植物を知ることの楽しさを人々に伝え続けた牧野富太郎博士。そんな彼は、高知県民からしばしば「牧野さん」と呼ばれている。その理由は諸説あるが、理学博士の学位を受けたのが65歳と遅く、それまでに彼が市井の草花愛好家たちに広く親しまれる存在になっていたからでは、とも言われているという。学位にこだわらず、一般の人々に呼ばれては各地を訪れ、植物の魅力を伝え続けた、牧野博士らしい呼ばれ方だ。



子どもにも親しまれる植物園。



藤井さんにとって
牧野さんとは

牧野博士は、人柄もユニーク。

深掘りをすれば話が尽きない人！

博士の志が色濃く受け継がれる
草花への愛にあふれた植物園

高知市を見下ろす五台山に、昭和33年に開園した高知県立牧野植物園。牧野博士の業績をはじめ、博士ゆかりの草花を気軽に見ることができるとして、日本を代表する植物園になつている。ここに勤める職員たちも、もちろん牧野博士が大好き。16年にわたつて園地を管理してきた藤井さんは、「博士が遺した『さすが土佐だけのことは



草花を紹介するプレートには、牧野博士ゆかりの知識も細かく記載している。

ある」と絶賛される植物園に」という願いを胸に、園地づくりをしています。園を訪れた人たちに、博士が鼻高々になつて草花を自慢して歩ける。そんな場所にするのが、私の目標なんです」と語つた。植物園を「生きた植物図鑑」と考え、草花の種類や状態はもちろん、景観にもこだわる。「来園をきっかけに、高知県の植生の豊かに気づいてもらえたら、二千種類以上の植物が確認されている高知県は、植物の宝庫なんですよ」。博士の志が色濃く受け継がれる植物園だ。

牧野植物園職員・草花活用支援専門員
ふじい せいこ
藤井 聖子さん

昭和55年、大阪府生まれ。現在は、牧野博士や植物を観光資源として生かすため、県内の自治体を支援する活動も行っている。

植物が生い茂る園内。植物に親しみを感じ、身の周りの草花に関心を持ってもらえたら、という思いがある。



牧野さんの影響で



牧野富太郎生誕150周年の節目に始まった牧野公園のリニューアル。そこからさらに動きは広がり、佐川町をまるごと植物園に見立てた新しい町づくりがスタート！



不思議な親近感を覚えてしまうほど、

牧野公園
はなもりC-LOVE
にとって
牧野さんとは

植物を愛し、植物を残してくれた人。



牧野公園はなもりC-LOVE／チーム田村
たむら かずみ やまさき ひろし
田村一水さん・山崎廣さん・
たむら ゆうしょう
田村勇勝さん

牧野公園の整備を担うチーム田村(全6名)。地域の植物に精通し、ボランティア活動では中核的存在。

守っている。

牧野博士の地元、佐川町では、植物を通じて人々が交流する、植物の町づくりが進んでいる。その名も、「まちまるごと植物園」。街も庭先も里山も町内全てが植物園という、博士の故郷ならではの発想だ。ここでは地元住民が、「育てるを楽しむ」を合言葉に、さまざまな草花活動を行っており、とりわけ中心部の里山を生かした「牧野公園」では、ボランティア団体「牧野公園はなもりC-LOVE」のメンバーたちが、公園の植栽や除草を和気あいあいと楽しみながら実施。牧野博士が愛した地元の自然を守っている。

町民みんなが「育てる」を楽しむ

「まちまるごと植物園」の取り組み



地元高校生×牧野博士

佐川高校地域マネジメント部の高校生が、牧野公園の町歩きガイドを実施。佐川町を訪れた人に、地元の文化や博士ゆかりの植物を案内している。



ロゴプレート

「育てる」を楽しむ場所に立つ、「まちまるごと植物園」のシンボリックなプレート。ロゴプレートの配布状況はなんと129件。中には自宅の庭の草花を見学できるように、プレートを立てて開放している住民もいるという。



植栽イベント

牧野博士ゆかりの草花を、初心者でも育てられるように植栽イベントを実施。種まきから苗づくりまで行い、牧野公園や自宅に植えて育てることもできる。

オリジナルグッズ

ポスターやクリアファイルといったオリジナルグッズも登場。牧野公園でみられる牧野博士ゆかりの植物をモチーフにしたデザインで、新たな活用も予定されている。



好きすぎて道の駅まで!?

まきのさんの道の駅・佐川

令和5年7月、佐川町に牧野博士の名前を冠した道の駅がオープンする。施設内には芝生の庭も整備され、博士の地元らしい交流拠点になるという。ファミリー向けの「遊具公園」や「佐川おもちゃ美術館」の併設も予定されているとのこと!



©STUDIO YY

小中学校との連携

町内の小中学校の児童生徒で「牧野博士ゆかりの植物」を種から育て、牧野公園や学校、地域の花壇に植栽し、佐川町の魅力あふれる庭づくりに取り組む。



2019年撮影

そんな牧野公園の整備を長年にわたって担ってきた功労者が「チーム田村」。特に最年長の山崎さんは、牧野博士の生家「岸屋」の雑貨店に勤めていた経歴を持つ生粋の牧野ファンで、博士の書籍などから得た山野草の知識を生かして、地元で行われる植栽や苗の育成にも貢献する。「植物を「育てる」分野じゃ、僕たち、牧野さんにも負けないからね!」と、公園づくりにかける強い思いを話してくれた。

草花を通じて
より愛着が深まる

地元がまるごと植物園

佐川町室原の里山で、牧野博士が確認したのと同じ「トキワガキ」を見上げる参加者たち。散策コースの案内や整備も、地元の「佐川さとやま遊友会」が行う。



牧野博士の足跡を辿りたい

高知県内各地に残る、牧野博士の足跡。地元住民が立ち上がり、博士と草花を楽しむ道として整備が進んでいる。

牧野博士の発見を 追体験できる道

高知県内はもろろん、日本全国に自ら足を運び、各地で植物採集を行った牧野博士。その記録は「牧野富太郎博士植物採集行動録」などに詳細に記録されているが、近年、その足跡を辿ろうという取り組みが活発になっている。牽引するのは、高知県立牧野植物園に長年勤めた稲垣さん。そして、博士が訪れたそれぞれの地域の地元住民たちだ。

「牧野博士の歩いた道には、博士が記録した草花の子孫や、触れた樹木が今でも残っていることがあります。手探りで探し当てた時は、やはりあつたか！と、感動は大きい。命名種や希少種などもあり、『牧野博士の道』にはロマングが詰まっているんです」と稲垣さんは話す。



牧野植物園ではアドバイザーを務める。稲垣さんの植物観察のイベントは、常に満員という人気ぶりだ。

稲垣さんにとって
牧野さんとは

苦勞して身につけた知識を、

誰にでも惜しげなく与えた、おおらかな人。



県立牧野植物園 アドバイザー
いながき のりとし
稲垣 典年さん

昭和15年、室戸市生まれ。長年、牧野植物園職員として勤務し、令和4年には、植物園の分野で名誉ある「木村賞」や、学術の分野で「高知県文化賞」を受賞。



かつて牧野博士が「サギソウ」をスケッチした佐川町鳥の巣。草刈りやベンチの設置など、整備が進む。

仲間と共におよそ20年前から始まったこの取り組み。現在は、大月町や三原村、越知町などに広がり、各地でコースの整備と草花ガイドの育成が進んでいる。「博士がスケッチをした場所や眺めた景色、見つけた植物。こういったものを探して、地域を訪れた人に紹介するのは、地元住民でなければ」と稲垣さん。令和4年には佐川町でも「佐川さとやま遊友会」が発足し、

**博士や草花から生まれる交流
将来は日本全国に広げたい**

牧野博士ゆかりの散策コースを発信。博士が見つけ、現在は絶滅危惧種になった「サギソウ」の復活にも取り組む。稲垣さんは「県内の各市町村全てに博士の道を整備すれば、観光資源になります。将来は、日本の各都道府県全てに博士の道ができて、交流が生まれてくれたら」と意気込む。



日記や標本をもとに、牧野博士の足跡を地図に落とし、歩いていくと、博士が歩いた道が見出される。

高知県内の牧野博士ゆかりのスポット

大月町



月光桜

かつて牧野博士が見たという幻の山桜。満月の夜に満開になるという言い伝えから「月光桜」と名付けられ、親しまれている。

安芸市



伊尾木洞

波の侵食によりできた洞窟で、さまざまなシダ植物が見られる。牧野博士もここを訪れ、シダ植物を採集した。

室戸市



室戸岬

植物採集や観察会で訪れた地。「アコウ」や牧野博士が学名を命名した「ハマアザミ」などを見ることができる。

牧野博士の物語が子どもたちの成長に

「ミュージカルは人を育てる。牧野さんは最高の題材だと思います」。そう話すのは、高知市で劇団を運営する田村さん。その言葉の背景にあるのは、令和4年に上演されたミュージカル「MAKINOU」だ。牧野博士の植物に対する愛や情熱、一つのことにはひたむきに取り組む姿を、子どもたちが想像し、演じることで、これからの成長に著しく影響を与えると確信。また牧野博士がたぐさんの草花に名前を付けたこと

から、メインテーマを「なまえ」と題し、名前の尊さを音楽で表現した。演じた子どもたちは「植物への愛情がすごい」「緻密に描かれた植物図に驚いた」「名前の大切さが分かった」などの素直な声と共に、楽しそうな表情を見せてくれた。



牧野博士の魂が少年となって現れて心ふさいだ少女を導く、感動のストーリーを上演。

植物分野のみならず、芸術やデザインの世界からも称賛の声を集める牧野博士。博士のどんなところに惹かれるのか、尋ねてみた。

ラブコール!

牧野さんを支えた妻・寿衛さん

表現家の松田さんが「土佐の偉人の陰にこの女（ひと）あり」というテーマのもと、牧野博士の妻・寿衛（すえ）さんの楽曲制作を始めたのは、およそ4年前のこと。「生涯をかけて偉業を成し遂げた牧野さんを支え続けた寿衛さんは、とても懐の深い女性だったのでは？」そんな着想を皮切りに、作家・大原富枝の小説「草を褥に」、朝井まかて氏の著書や講演などを通じて、寿衛さんの素顔を探し続けた。そこで松田さんが見出した



編曲は、高知県立岡豊高校の音楽教諭・松居孝行氏が担当。曲の良さを引き出し、心に残る音楽に仕上げている。

のは、牧野さんをそばで支えながら、たくましい女性に成長する寿衛さんの姿。平成30年に制作した「ユエコザサ」では、牧野博士を敬慕し、信じ抜く様子や心細い心境などを音楽で表現。多くの人に寿衛さんの姿を伝え続けている。

田村さんにとって牧野さんとは？

尊敬する人。一つのことを追い続けた生きざまに天晴れ！

高知リトルプレイヤーズシアター 代表

たむらちか
田村千賀さん

劇団の運営をはじめ、よさこい祭りの踊りの振り付け、各種イベントの企画・演出・制作などを手がける。

劇団運営

松田さんにとって牧野さんとは？

天真爛漫な笑顔で、秀衛さんと周囲を成長させた人。

アトリエよくばり子リス 代表

まつだまさこ
松田雅子さん

昭和37年、高岡郡佐川町生まれ。これまで10年以上県内のご当地ソングの作詞・作曲に取り組む。平成30年からは「朝ドラに牧野野太郎を」の会の事務局次長を務めた。

表現家

草花に対する愛が 無二の表現に

長年にわたって博物館や博覧会の展示デザインを主に手掛けてきた里見さん。高知県立牧野植物園の常設展示を担当した人物でもあり、その後も展示デザイナーとして植物園に勤務。およそ30年もの間、牧野博士と向き合ってきた。「デザイナーとして学んだのは、対象への愛。牧野さんの植物画を見ても、書かれたものを読んでも、本当に植物が好きじゃないと、ここまでできないって思う」。現在は、練馬区立牧野記念庭園



牧野博士の蔵書を手描きで再現しているところ。

で令和5年4月3日から公開される、晩年の牧野博士の書齋を再現する仕事に取り組む。「常軌を逸したところもあるけれど、誰もが好きになつてしまうような茶目つ気もある。そんな牧野さんの個性を表現したい」と話してくれた。

里見さんにとって
草野さんとは？

草花をとことん愛した人で、その愛をたくさんの方法で表現した人だと思っています。

デザイナー

里見デザイン室
さとみ かずひこ
里見 和彦さん

昭和32年、高知市生まれ。大学で舞台美術を学び、後に展示デザインを手掛ける会社を友人と起業。平成11年からは牧野植物園で勤務した。

アート分野からも 牧野博士に

歴史ロマンを駆り立てる 若き牧野富太郎の肖像

漫画家の村上もとかさんは、牧野博士が過ごした練馬区に仕事場があったこともあり、「牧野日本植物図鑑」を作画資料として使っていたほど、博士に親しみがあるといふ。初めて高知県立牧野植物園を訪れた際には、漫画家として心を打たれた瞬間もあった。「壮年の牧野さんとは、とってもチャーミングな笑顔で幸せそうですが、その一方で、まだ若い頃、自由民権運動の仲間たちと一緒に撮られた牧野さんの

写真を目にしたら、ハッと、侍の顔をしているな。新しい時代を引っ張ってきた若者の一人だったんだ、あの笑顔になるまで、どれほどの苦労があったんだろう」と強く感じましたね。変革期の時代のエネルギーを一身に受け、それを植物研究に注ぎ込んだ牧野博士……。歴史物を描く漫画家として、そんな想像をかき立てられたという。今号の表紙を手掛けてくれた。

村上先生にとって
草野さんとは？

時代の違いを超えて、現代に訴えかけてくる説得力がある。覇気に満ちた人。

漫画家
むらかみ
村上 もとかさん

昭和26年、東京都生まれ。歴史漫画を中心に、さまざまな作品を手掛ける。代表作は「六三四の剣」「龍-RON-」(小学館)、「JIN-仁-」(集英社)など。

漫画家

豊かな自然といごっ そうな県民性！
高知の魅力を絵に描いたような人物。

正延さんにとって
牧野さんとは



NHK高知放送局 局長
まさのぶ ともゆき
正延 知行さん

昭和39年、大阪府生まれ。子ども時代は大豊町で過ごしたことも。昭和63年にNHK入局。令和2年、高知放送局局長に就任。



「らんまん」の台本に目を通して
いる正延さん。

令和4年4月からスタートするNHK連続テレビ小説「らんまん」。高知放送局の正延さんは、「もともと東京の局では博士の知名度は低かったんですが、高知からいろいろな立場の方々が懸命に誘致活動に取り組んで、見事、実を結んだことが本当に嬉しい」と思いを語る。決定後の反響は予想以上に大きく、令和4年に高知で行われたロケにも、たくさんの見物者が。高知県民の牧野博士への愛を改めて感じたと言う。「牧野博士は高知県人の魅力が詰まったような人。だから愛され続けるのではないのでしょうか」。

なぜ今、 牧野博士にメディアが注目!?

牧野博士は令和のヒーロー!?! メディアから注目を集める理由を、地元の報道関係者に分析してもらった。



竹内さんにとって
牧野さんとは

周りの人がどんどんファンになっていく、
不思議な魅力と影響力を持った人。



高知新聞社 メディア企画部
たけうち はじめ
竹内 一さん

昭和43年、高知市生まれ。平成4年に高知新聞社に入社。学芸部、須崎支局長、報道部などを経て現職。



「生誕150年 牧野富太郎を歩く」
を大幅加筆した書籍「MAKINO」。

平成24年、高知新聞で大きな反響を呼んだ連載記事「生誕150年 牧野富太郎を歩く」を手掛けた、竹内記者。執筆のため、牧野博士が訪れたという土地を旅したと話す。「改めて牧野さんのファンの多さと影響力の大きさを各地で実感しましたね。牧野さんで特筆されるべきことは、そうやって彼に惹かれた人々が、やがて『牧野さん』を合言葉に繋がり、コミュニティを後世に伝えていったことでしょうか」と振り返る。生誕160周年を迎え、「博士が教えてくれた高知のポタニカルな魅力がより注目されてほしい」と期待する。

博士が好みそうな

グルメを開発!

牧野博士って実はグルメ!?
野草を生かしたうどん

牧野博士が植物調査を行った

四国カリストの麓に佇む「農家食

堂café イチヨウノキ」では、

近隣の地域が高知県立牧野植物

園と連携協定を結んで

いたことをきっかけに、博士に

ちなんだ

牧野博士で地元を盛り上げようと、博士を題材にしたグルメ開発が進む高知県。ゆかりの地で誕生した新名物に注目!



美しい沢の水が流れる施設周辺には、水のきれいな場所でしか育たないといわれるクレソンが豊富に自生。

グルメを開発。国際的に活躍する岡林実シエフをアドバイザーとして招き、出来上がったのが「津野山はいからうどん」。地域の野草・クレソンをメインに、牧野博士の好物とされるトマトや高知らしいカツオの魚醤、さらにはレモンや温玉などもトッピング。センター長の中越さんいわく「独特でエキゾチックな味わいが好評ですよ」。牧野博士にちなんだグルメ開発は、県内各地で進んでいるという。

中越さんにとって
牧野さんとは

険しい山も臆さず進み、
探求する心を伝えた偉大な人物!

集落活動センター 奥四万十の郷 センター長
なかよし かずとし
中越 一俊さん

高岡郡津野町生まれ。「イチヨウノキ」運営はもちろん、地元の自然を生かしたウォーキングやワークショップ等のイベントも開催。



この日の調査で確認された「ジュズネノキ」。四万十町ではこれまでに約1300種類の草花が記録されているが、それでも発見は尽きない。

博士に倣って 調査にも参加!

植物採集で各地を訪れた牧野博士のように、一般の草花愛好家が研究調査に参加している。発見が尽きない楽しさを取材した。



まるで宝探し!

歓声上がる

草花調査活動

「あ! あったあ! あった!」うわあ、可愛い! そんな歓声が上がっているのは、四万十町で開催された野生植物の分布調査会。地元どんな草花があるのかを調査する活動に、専門の研究調査員だけでなく一般の地元住民も参加しているのだ。ここを中心になっているのは、「遠山の自然を守る会」のメンバーたち。平成21年から地元の貴重な草花を保全してきた。いずれも「草花が好きでたまらない!」といった様子で、活動中にもたくさん笑顔があふれる。メンバーの横山さんは、「これまで四万十町で確認されていなかった草花が初めて発見される。そんな現場にも立ち会えるんです!」と言う。

「この人の弟子になりたい!」と思うほど、草花のことを教えてください。

横山さんにとって
牧野さんとは

遠山の自然を守る会
よこやまのみほ
横山 美穂さん

昭和33年、四万十町生まれ。地元小学校で教師として働いていた当時から、遠山地域を中心に、地元の貴重な草花の保全活動に関わる。

牧野博士のように 草花の魅力を伝える

高知県では、平成13年に始まった「高知県植物誌」の調査活動から、一般の県民が野生植物の分布調査に参加するようになった。限られた研究者だけでなく、地域の住民が広く関わることで、調査活動ができる人材が育ち、交流の輪が広がり、植物を保全する意識が高められている。こういった、専門家もアマチュアも一緒になつて植物調査に夢中になつている様子は、どこか牧野博士の姿とも重なるだろう。牧野植物園の研究調査員である鴻上さんは、「牧野博士の最大の功績は、一般の人々の中に後継者をたくさんつくってきたことだと思つています。肩から胸乱を下げた子どもが、牧野博士と一緒にあって、楽しそうに植物調査をしている写

真が残っていますよね」と話す。かつて日本全国から牧野博士のもとに植物標本が送られたように、今高知県でも、地元住民が地元の草花の標本を牧野植物園へ収める活動が受け継がれている。



既に記録されている草花リストをもとに、採取して標本にすべき植物を探す。活動中は、いろいろな草花の名前が飛び交う。



採取した草花を丁寧に並べて、新聞紙に挟む標本作りは、牧野博士のやり方と同じ。発見した地点の経度や緯度まで記録する。

草花の魅力の伝道師。たくさんの人々に
植物への愛を伝えた姿に憧れますね。

鴻上さんにとって
牧野さんとは

教育にも貢献!
牧野植物園に
新施設が登場!

植物の研究施設でもある高知県立牧野植物園。実は専門の研究者たちも勤務しており、有用植物の研究など、さまざまな産業振興・教育普及に貢献している。令和5年5月20日にオープンを予定している「植物研究交流センター」は、そんな植物園の一面がさらに身近になる施設。子どもたちが植物を使った理科実験を行うことができ「キットラボ」をはじめ、交流スペースやレストラン、ショップなども誕生する予定だという。子どもたちに草花の楽しさを伝え、身の周りの植物を保全する意識を育む教育普及に、さらに貢献していく。



外観イメージ



遠山の自然を守る会の代表・池田さん(左写真)は、「草花だけでなく、地元に来たかもしれない牧野博士の足跡も探そう」と話すほど、牧野博士を尊敬しているという。

牧野植物園 研究調査員

こうかみ やすし

鴻上 泰さん

昭和24年、東京都生まれ。子どもの頃から牧野博士に憧れ、高知大学を経て、昭和54年から牧野植物園に勤務。「土佐植物研究会」では会長も務める。

GUEST

DANDYISM TOSA BAR Craps

し お た た か し

塩田 貴志さん

昭和32年、高知市生まれ。友人に誘われたことをきっかけに、22歳からバーカウンターに立つ。20代で自らの店を持ち、バーテンダーひと筋。高知愛を胸に、地元の素材を生かしたローカルククテルを提供し続けている。「全国バーテンダー技能競技大会創作の部」で優勝した経歴も。



プライム トーク

次世代を担う
土佐人たち

高知の風土に育まれた「土佐人」たちは
今日もそれぞれの分野から「土佐の風」を発信
そこに新たな文化を重ねながら…

「土佐」にこだわる 名バーテンダーが 牧野博士と出会う

高知初のクラフトジンが誕生した。そんな話題が駆け巡ったのは、令和4年のこと。その名も「マキノジン」。なんと牧野博士にまつわるストーリーが、たくさん詰まっているらしい。手掛けたのは、高知県最大の繁華街・帯屋町で知る人ぞ知る名バーテンダー、「パークラップス」の塩田貴志さん。この組み合わせに、お酒と社交が大好きな土佐人たちが、どれほど胸を熱くしただろう。

夜の喧騒とは一線を画す、落ち着いた雰囲気。「オーセンティックバー」を、高知で作りに上げてきた塩田さん。40年近いキャリアがあるベテランのバーテンダーだが、それに負けないくらい、「土佐」に対するこだわりが強い。「ローカルククテルにこだわるたい、という気持ちはずっとありまして。都会の洗練されたカクテルにはちょっとないような、地元のフルーツや野菜、それに地酒を使ったオリジナルカクテルを作ってきました」。その言葉通り、塩田さんがお酒に合わせたのは、文旦やブシュカンなど、まさに土佐の味覚。そのため、「土佐学協会」の土佐の酔みかん文化を学ぶイベントにも参加しているという。

土佐の名バーテンダーが挑戦する 牧野博士の名前を冠するクラフトジン。

実は、塩田さんがマキノジンのアイデアと出会ったのも、こちらで開催された「利き木酢（ききぎす、酢みかんの果汁の試飲）」のイベントだった。

バーテンダーだからこそ作り出すことができた 高知初のクラフトジン

「さまざまな酢みかんの果汁を試す中で、『これはジンで味わいたいね!』という声が上がったそうで、それを聞いた時、世界的にブームが続いているクラフトジンを高知で作りたい、という僕の思いが、はつきりと焦点を結んだ感覚がしたんです」。当時、食品ビジネスに取り組む人材を育成する「土佐FBC」に

土佐の酢みかんを生かした、塩田さんのオリジナルカクテル。マキノジンだからこそよく合う、土佐の柑橘らしいシトラスの風味が香る。



通っていた塩田さんは、早速ジンの製造方法、とりわけ蒸留技術について研究を開始。当時は特に、サントリーのジャパニーズクラフトジン「ROKU」を開発した鳥井和之さんと交流できたことが大きかったという。「鳥井さんに、どうすれば蒸留がうまくいくのか尋ねたら、『それこそ、カクテルのインフュージョン（浸漬酒、風味付け）だよ』と。バーテンダーの目線でやればいいんだ、と言ってももらえたんです。この言葉は大きかったですね」。自信を持った塩田さんは、クラフトジンの風味付けに欠かせないポタニカル（植物系の素材）として、12種類の高知県産の素材を選出。「高知のポタニカルといえば牧野さん」と意識し、そこには博士の妻にちなんでその名が付けられた「スエコザサ」も加えた。それらの選定や配合比率の検討が進んでいくと、塩田さんと「マキノジン」の物語は、いよいよ牧野博士の故郷、佐川町に移ってゆく。

牧野博士のエルと 運命を感じながら 出来上がったマキノジン

クラフトジンを作るなら、そのスピリッツ（原酒）は、自身がかねてよりほれ込んでいた、佐川町の酒造「司牡丹」の焼酎と決めていたという塩田さん。満を持して司牡丹の竹村社長に話を持ち掛けたところ、最初はとても驚かされたと言う。「司牡丹でジンを作る蒸留器を置いていた場所は、なんと牧野さんの生家があった酒蔵の跡地だそうで。運命に導かれてきたみたいでした」。そこにあったのは、もう10年以上も稼働していない「ボンコツ蒸留器」だったが、かえって塩田さんは「土佐人魂に火がついた」と言う。「クラフトジン作りを通じて、どんどん牧野さんと距離が近くなっていったように思います。学位を取るより山野で植物採集をしたかったように、自分が本当にやりたいことをやる牧野さんの姿に勇気もらいました」



た」。さらに牧野博士のエルを感じたのは、クラウドファンディングに挑戦した時。「資金集めで

は、日本全国の牧野ファンから応援してもらえたんです。牧野さんに詳しい、作家のいとうせいこうさんも応援してくれて。博士が愛され続けていることが分かりました」。

こうして、令和3年10月に最初の蒸留にこぎ着けたマキノジン。塩田さんが思い描いた通りの、土佐らしい「パーフェクトシトラスフレーバー」に仕上がった。「牧野さんの業績のように、世界に通用するクラフトジンをこれからも作っていきたい」と、今後の目標を語ってくれた。



エフエム高知で毎週金曜日に放送中の「プライムトーク」に出演した時の塩田さん。塩田さんの出演回は、令和5年3月24日、3月31日の2週にわたってオンエア。

土佐 旬と地域と人 よもぎ おたから しんがら

今回の
食材

【よもぎ】

全国各地の野原や河川の土手に自生している多年草。食用にするのは3月から5月の若い芽で、古くから漢方としても使われている。

場所 仁淀川流域など県内各地

旬 3月～5月

春の訪れを告げる

よもぎを包んだお餅
家庭から地域の味へ

仁淀川町の別枝地区べしで古くから伝わってきた郷土料理、いりもち。仁淀川上流域の清らかな水で育った、地元で自生するよもぎをふんだんに使っており、ここならではの「変わり餅」として、地元の家庭はもちろん、仁淀川を訪れた観光客にも親しまれている。とりわけ、3月の芽立ちの時期に摘まれたよもぎは香りが強く、春の訪れを告げる味覚になっている。お餅のもっちりとした食感に、つぶあんの優しい甘み、そして鼻に抜ける爽やかなよもぎの香りが合わさると、仁淀川流域の昔ながらの素朴な風景が感じられるようだ。土佐三大祭りの一つである「秋葉祭り」でも、地域を訪れた人々にたくさんのいりもちが振る舞われている。まさに仁淀川町の「看板餅」なのだ。

▶用意するもの(5個分)

- よもぎ 30g
- 小麦粉 100g
- 塩 少々
- 水 120g
- つぶあん 150g



2



材料



3-1



1



3-2



4



5

- 1 香りが良い芽立ちのよもぎを、指先で軽く摘んで取る。鍋で湯を沸かし、よもぎを柔らかくなるまで煮る。煮たよもぎは、すばやく流水で冷やして、絞っておく。
- 2 冷やしたよもぎをミキサーによくかけ、小麦粉、塩、水と粘り気が出るまでよく混ぜ合わせる。
- 3 1つにつき、つぶあん約30gを生地に優しく包む。ポイントは、手に生地がくっつかないように適度に手を湿らせ、生地が柔らかいので素早く包み込むこと。
- 4 熱したフライパンで、丸い形に整えながら焼き上げる。押し付けたりして、あんこが出ないように気をつける。
- 5 黄緑色の生地が濃い緑色にこんがり焼けたら完成。

きんつば

おたからレシピ

ひとくちメモ

焼く時に使う油は、香りの良い米油がおすす
め。昔ながらの素朴な味わいを大切にして
おり、冷めても美味しいレシピになっている。
つぶあんを黒糖にアレンジしても美味しい。
遠くから訪れた方々へ、地域の味として振る舞っている。

まだまだある！

【えびなの酢みそ和え】

ワラビやぜんまいなどの、山菜が芽吹く前に採れるえびな。昔から汁の実や煮物、和え物、炒め物など食卓に春を運んできた。

【ぜんまいの油炒め】

高知県内でもぜんまいの産地として知られる大豊町。ぜんまいは茹でて、乾燥すると長期保存がきくため、重要な食材でもあった。

【レシピ案内人】

秋葉生活改善グループ

別枝地区の女性たちで平成7年に結成。イベント出店など、活動の幅を広げており、近年ではお茶やよもぎ風味の「きんつば」といった商品開発にも挑戦。一つ一つ手作りで、地域の食を生かしたPR活動を行っている。



中越久美さん

掛水福恵さん

エルドリッチ愛未さん

大石淑子さん

山本トメさん

土佐の

業

高知県民の心豊かな暮らしに寄り添いさまざまな事業を展開している株式会社フタガミ。中でも高知県の気候に合った、提案型の庭づくりを手掛ける事業「84 ガーデンガーデン」では、植物の育て方まで相談に乗っている。ここでガーデナーとして働いているのが、入社6年目の竹崎さん。敷地内にある約250種類もの植物を管理しながら、植物と一緒に過

植物のある暮らしを提案するお仕事

ごす楽しさを提案するため、お客様の庭にも伺い、施工まで手掛けている。心掛けるのは、高知で育てやすく、初心者でも気軽に続けられるガーデンライフだ。「今後は、お客様のお庭づくりにもっと役立てるように、植栽はもちろん、エクステリアの知識も増やしていきたい」と勉強中だ。



土佐に息づくさまざまな職人ワザ。伝統の傍らに、常に新しい展開があることも、土佐らしい特徴の一つだ。今回は、庭づくりをテーマに、土佐の業を探訪！



株式会社フタガミにわチーム

たけざき めい
竹崎 女唯さん

平成8年、香美市生まれ。実家の農業を継ぐため農業大学で野菜の栽培を学ぶも、当時の先生から勧めてもらったことをきっかけに、ガーデニングの世界に飛び込む。平成29年、株式会社フタガミに入社。



農業大学では野菜の栽培を専攻していたため、草花の知識は入社後に猛勉強したという竹崎さん。自然に任せただけのままの樹形を大切にしながら、植物が育ちやすい環境をつくっている。



ガーデンで育てたレモングラスを収穫して作ったアイテム。育てるだけでなく、植物の使い方や飾り方まで提案する。



相談コーナーでは、お客様の理想を手描きでイラストに起こし、その後、エクステリアのCAD(設計ソフト)を使って図面化する。



出勤後の最初の仕事は、庭のチェック。病気や枯れたものがないか確認し、美しい庭を維持するため、剪定作業を行う。



いつも身につけている腰道具には、硬枝でも切れるハサミや移植ごて、株分けのカットから草引きまで使える山菜ナイフなどがある。

日々脈々

今回の
テーマ

庭づくり

暮らしと自然が調和した庭づくり

昭和35年に、当時の葉山村（現在の津野町）で創業した「葉山庭園」。伝統的な日本庭園を手掛ける庭屋として、個人宅だけにとどまらず、オフィスビルや公園といった幅広い現場で造園工事を行ってきた。現在、番頭を務めるのは、濱氏広己さん。これまで手掛けた庭は1000件以上にも上り、設計から現場仕事、技術指導まで、何でもこなすベテランだ。職人としてこだ

わるのは、庭を生活空間に溶け込んだ佇まいにすること。家で以前から使われていた石や瓦を資材に再利用するなど、暮らしの中に自然を調和させていく。「僕らが扱っているのは植物という生き物。限られた空間で、向き・高さ・位置などに注意して、10年以上先の姿を見据えた庭づくりをしていきたい」と笑顔で話す。



創業者から受け継がれる鉈をはじめ、キリバシや剪定鋏など、植物や立地に合わせて使いこなす。新潟県の老舗染物屋が手がけた藍染めの法被も、長年共にしてきた大切な存在。



有限会社 葉山庭園

はまうじ ひろみ
濱氏 広己さん

昭和40年、高知市生まれ。アウトドアが好きだった父親の影響で、自然に触れる機会が多く、高校では造園科を選択。卒業後に「葉山庭園」へ就職。



樹木や資材の販売も行い、樹木の植え替えや芝貼りなど、好みや希望に合わせて庭をリメイクすることができる。



剪定した木の切り口には、乾燥防止や殺菌の効果がある癒合剤を塗る。炭を配合しているため、色は黒く、自然に溶け込むよう配慮している。



樹木の健康状態に合わせて、伐採や修復などを提案。樹木匠とも連携して、木の状態を数値化しながら施主に提案することも。



施工をスムーズに進めるためには、段取りも欠かせない。実際に現場へ赴き、監督など全体のマネジメントを行う。

うちの商店街
番外編!

ちっくと寄っでいかんかえ〜

牧野さんのまち

今回は

うえまち
佐川町上町地区

高知市から車でおよそ50分。佐川町上町地区は、石畳の街路や歴史の趣を感じられるエリア。古くから続く酒造文化を生かした町おこしなど、見どころたくさん!



貉藻(むじなも)

いとう けいた
伊藤 啓太さん

お酒や古書、音楽が楽しめる古書店バー。店名は、牧野博士が名付けた植物の名前から。尊敬を込めて、牧野博士に関する書籍も数多く置いている。定期的に食や音楽のイベント営業も。

紡ぎ工房 kichi

ひもと みえ
肥本 美恵さん

佐川駅前にある古民家をリノベーションしたスイーツ店。のれんやすだれが目を引く。地元産の旬の食材にこだわったパンやお菓子を提供している。

酒ギャラリーほてい

たけむら あきひこ
竹村 昭彦さん

佐川町でおよそ400年続く「司牡丹酒造」のショールーム兼アンテナショップ。お酒はもちろん、酒器や和雑貨なども並ぶ。土佐酒文化の発信基地として、お酒を愛する文化や生活を提案している。

雑貨と喫茶 キリン館

おかざき えみ
岡崎 笑顔さん

江戸時代に建てられ、国の登録有形文化財にもなっている「旧竹村呉服店」をリノベーションした雑貨店。和室や蔵を生かした店内の空間は、レトロな雰囲気可愛らしい。

街の一言



歴史ある酒蔵の道で 光と音楽の劇場

佐川町上町地区の一大イベントと言えば、「さかわ・酒蔵ロード劇場」。コロナ禍ではYouTubeを通じたウェブ開催なども行い、これまでに15回も開催されてきました。上町地区の特徴である土佐漆喰の白壁が続く街並みを生かして、壁面に映像を投影し、音楽も演奏します。今年も開催準備を進めていますので、ぜひ遊びにきてくださいね。

一般社団法人
さかわ観光協会
やまざき まさかず
山崎 正和さん



商店街MAP

牧野博士の生家跡地に建つ「牧野富太郎ふるさと館」をはじめ、見事な桜や四季折々の草花を見ることができる「牧野公園」など、見どころがいっぱい。



**牧野博士ゆかりの地
藩政時代の情緒が残る
レトロな街並みが魅力！**

佐川町の中心エリアにあり、牧野博士をはじめ、数多くの文化人を輩出したことで知られる「上町地区」。前身は、土佐藩を治めていた山内一豊氏の筆頭・深尾家が70年かけて築いた城下町で、そこには、仁淀川の上質な伏流水を自当てに酒造人も多く集まり、数々の酒蔵が立ち並ぶようになり、それらが合併して「司牡丹酒造」となった。歴史の趣を感じられる酒蔵が続く道や、昔ながらの屋敷の街並みが、今も残されている。

そんな上町地区を歩いてみれば、目を引くのは古民家を見事にリノベーションした、レトロな雰囲気が漂うお店たち。さかわ観光協会の山崎さんは「新規・既存のイベントをパワーアップさせて皆様をお待ちしております。近年は牧野博士の人気も高まっているので、博士にゆかりがある、地元ならではの体験博や、四季折々の草花を楽しむこともPRしていきたいですね。春の牧野公園は、見事な桜の名所ですので、ぜひ訪れてみてください」と話してくれました。

問い合わせ 一般社団法人 さかわ観光協会 TEL:0889-20-9500

つないでつむいで

県史編さん室

高知県史(自治体史)とは？

高知県について伝え残されたさまざまな資料を調査し、県の歴史を詳細に記したものを、郷土の歴史を知る、大切な手掛かりだ。



専門部会による聞き取り調査が進んでいます！

現代部会と民俗部会
専門分野を横断して
聞き取り調査を実施

高知県の歴史はもちろん、民俗や考古など、さまざまな視点から高知県の歩みを記録する高知県史の取り組み。その編さん過程では、専門分野を横断する学際的な視点が欠かせない。

令和5年2月16日、県立高知城歴史博物館で、土佐伝統史研究会の代表・松崎淳子さんへの聞き取り調査に当たったのは、「現代部会」と「民俗部会」。どちらの専門部会も、文字と紙で残された資料だけでなく、今を生きる人々に聞き取り調査を行うことで、地域の歴史や文化を明らかにするという共通点がある。

今回の調査でも、戦後の早い時期から教育者、研究者として精力的に活動する松崎さんが見つめてきた高知の暮らしや食卓の変化など、両部会の専門性を生かした聞き取りが行われた。



ひとりひとりの 人生が紡ぐ高知県史

昭和20年3月に県立女子医学専門学校(高知県立大学の前身)に合格した松崎さん。同年7月に開校式と入学式を迎える予定が、直前の空襲で校舎が焼失。8月に急遽開校された佐川町の仮校舎で医学部の一年目を過ごした。県立高知女子大学で教鞭を執るようになってからは、「大学は花嫁修業の場ではない」と、卒業生全員の就職を目指した指導に取り組んだ。

大学教授を退官後も、「田舎寿司」や「つがに汁」といった伝統食の研究と紹介を続け、「自分が紹介した伝統食を楽しんでくれる若い方がいることが、何よりも嬉しい」と語る松崎さんは、まさに高知の生き字引きと言えるだろう。

このような聞き取り調査で、高知を知る人々の大切な記憶を記録し、その思いを後世へと繋いでゆく。新しい高知県史を作り上げるのは、ひとりひとりの人生なのだ。



土佐伝統食研究会 代表
松崎淳子さん

第四回 高知市 高知商工会議所

史料が語る ものの語

高知市中心部が灰じんに帰した大戦末期の高知空襲。施設や人家が焼失した中、高知城天守や現高知追手前高等学校本館とともに、奇跡的に被害を免れた高知商工会議所には、高知県の近代史をひもとく重要な資料が継承されている。



高知商工会議所の資料を調査する近代部会委員



明治33年に発行された「月報」第23号

高知県経済を映す鏡 商工会議所の月報類

高知商工会議所(現在の高知商工会館は戦後に再建されたもの)には、同所が発行してきた明治中期以降の月報類が、ほぼ完全に残されている。

例えば、明治22年の『月報』第23号には、浦戸港から国内外に出荷された県産品(当時の主要商品は紙類、鯉節、生糸など)の出荷額や、高知市で取引されている穀物の価格などの各種統計とともに、国内外の政治状況も掲載され、当時の商工業者にとって、とても重要な情報源だったことが伝わってくる。

これらの月報類は、新たな高知県史を編さんしていく上で重要な手掛かりとなることはもちろん、時代の流れに沿った県民生活の向上や産業の発展の過程を私たちに実感させてくれる。



高知商工会館
(高知市)



高知県の
歴史に触れる

県史特集

地元の文化施設が 地域の歴史を紡ぐ

今回のテーマは、地域の博物館。
高知県初の私設図書館「川田文庫」をルーツとして、
田中光顕や牧野富太郎を輩出した地元の歴史を紹介する
佐川町の青山文庫を訪ね、高知県史との関わりを探る。



地域で紡がれる歴史が
県史編さんの足掛かりに

青山文庫では、牧野博士の生誕160年を記念した特別展「植物学者・牧野富太郎の歩み」を開催している。「富太郎が生まれたまち佐川」「植物学者への道」「富太郎の功績」の3部構成で、貴重な歴史資料から牧野博士の歩みを辿る展示内容は、県史編さんの観点からも大変価値が高いものとなっている。

青山文庫の学芸員・藤田有紀さんは「牧野博士の経歴や功績を解き明かすと同時に、佐川という土地との関わり、藩政期から現在の高知県へと移り変わっていく歴史的な背景、社会システムの変化といった着眼点も加え、牧野博士をよりフラットな視点で描いている」と、今回の展示の見どころを語ってくれた。

青山文庫以外にも、たくさんの方の文化施設が地域の歴史を後世に伝えていく。そして、県史の編さんには、そのような地域の歴史に精通した施設との連携が欠かせない。地域に暮らす人々が今日まで歩んできた歴史の数々が、高知県の歴史をひもとく足掛かりになるのだ。

牧野博士を育んだ 地元の文教の精神

「文教のまち」佐川のシンボルとして、現存する玄関部分を中心に当時の姿を再現した「名

教館」。佐川の領主であった深尾氏が明和9（1772）年に一族の子供たちを教育する家塾として創設し、約30年後に深尾氏の家臣を教育する郷校に、明



植物標本をはじめ、晩年に愛用した絵具や洋服、牧野博士の祖父直筆の和歌など、地元の博物館ならではの展示物が並ぶ。

治維新後には一般庶民にも門戸が開かれ、少年時代の牧野博士もここで西洋の最先端の学問を学んでいた。こうした環境が「植物分類学の父」牧野富太郎を育んだのだ。

県史の編さんにおいても、地域の文化や歴史がどのように生まれたのかを考え、未来の人材育成に寄与していくことが大きな意義となっていく。

昭和48年、高知市生まれ。高知大学を卒業後、山内神社宝物資料館、土佐山内家宝物資料館での勤務を経て、平成22年から佐川町立青山文庫に勤務。

せいざんぶんこ
青山文庫 学芸員
ふじた あき

藤田有紀さん

土佐人の情熱が作る 新しい高知県史

高知県史の自然部会で副部長を務める、東京大学名誉教授の邑田仁さんは、「牧野博士の功績もあり、高知県の植物誌は既に多くの分野でレベルの高い研究成果がまとまっている。その一方で、花が咲かない植物や昆虫の研究はまだまだこれからといった状況。まずは自

然史研究の基礎となる標本採集から、県民の皆さんに協力を仰いでいきたい」と話す。

新しい県史の編さんにも、牧野博士のような情熱的な土佐人の活躍が期待されている。



自然部会 副部長
邑田仁さん



佐川町上町地区にある名教館。現在の文教のまちを見つめている。

伝え継がれる
土佐ものがたり

昔々にあったとさ

「お月さま、お日さま」

とんとむかし、山おくの村に、おじいさんとおばあさんが、住んでおったそうなの。
家のすぐ向こうに高い山があって、そこに畑を作ってソバをまいたと、その年はシケもなくソバがよく出来たので、秋も深くなったある日、おばあさんは一人でソバかりに行ったそうなの。
ソバがよく出来ているので、おばあさんは日が暮れるまでかりよつたら、東の山から十五夜のお月さまが出た。おばあさんは、おなかですいたのでソバを食べながら、
「ええ、お月さまじゃこと」とお月さまをながめよつた。
ほいたらお月さまが、ニコニコしながら、
「おばあさん、わたしにもソバをいっぱい食べさせてくれませんか」
「はいはい、お安いご用です」
おばあさんは、ソバを大きなドンブリへいっぱい盛ってやった。お月さまは大喜びでおいしい、おいしいと食べて、帰りしなに、
「ごちそうさま、これはすこしですが」と、三円おいていったそうなの。
おばあさんは、あまりの大金に「これはもうけた」とうきうきしながら帰ってきたと。
そのあくる日、おばあさんは、また山の畑へソバ刈りに行った。お昼の弁当にソバを食べよると、こんどはお日さまがいうた。
「わたしにもソバをいっぱい食べさせてくれんか」
「はいはい、お安いご用です」
おばあさんが、ソバをいっぱいお日さまにやると、「おいしい、おいしい」と、舌つづみを打って食べたそうなの。お日さまが、
「おばあさん、いくらあげましょうか」
「きのう、お月さまに三円もらいました」
「こういうと、お日さまは早がてんして、」
「月が三円なら、日は十銭でよかろう」と思つて、十銭おいて行ったと。
おばあさんはお金を見てびっくり。たったの十銭だったとき「損をした、損をした」と、大きなため息をついて、いつまでも嘆いておったそうなの。
むかしまっ(う、なるまっ(う……。

出典 土佐とんとむかし(お母さんの3分ばなし) 著者 市原麟一郎 絵 狩野貴貴子

天衣無縫に生きた土佐おどけ者の生き様に惹かれ「近代土佐における、おどけ者の探求」を行い、数々の民話を発行。そんな市原麟一郎氏が惹かれたおどけ者は「いこっそう」「どくれ」「ひょうげ」「そそくり」「かんりやく人」「のかな奴」「おっこうがり」「てんこのかあ」「こくどうもん」など。

※当時の通貨で1円=100銭



応募締切
令和5年6月20日

とさぶしからの贈り物

4



DANDYISM TOSA BAR Craps

マキノジン 1名様

牧野博士や高知ゆかりのポタニカルを司牡丹の焼酎に漬け込み、博士の地元・佐川町で蒸留した、高知初のクラフトジン。



株式会社わらびの

土佐手拭い「まきのさん手拭い」

2名様

人間的で明るく、満面の笑みが魅力の牧野博士を描いたデザイン。綿100%の日本手拭い。

5

イチヨウノキ

「津野山はいからうどん」

1杯引換券 5名様



津野町・郷地区に自生するクレソンをはじめ、トマトやレモン、カツオの魚醤などをトッピングしたヤミツキ必至の一杯。

2

雑貨と喫茶 キリン館

牧野博士ハガキ

3名様

色彩豊かな草花とともに、版画で温かみあふれる牧野博士がデザインされたハガキ。部屋に飾るインテリアにもおすすめ!



雑貨と喫茶 キリン館

とみくんCoffee(粉)

3

3名様

パッケージには牧野博士のイラストが描かれた、キリン館オリジナルコーヒー。



たみくんの応募
お待ちしています。



クイズとアンケートに答えて読者プレゼントに応募しよう!

クイズ

佐川町で進む町づくりの取り組みは?

- 1 スマホから右のQRコードを読み込んでwebサイトにアクセス
- 2 応募フォームより、必要事項を明記し、読者プレゼントに応募する

※読者プレゼントの応募は「とさぶしwebサイト」もしくは、官製ハガキから応募できます。官製ハガキで応募される場合はお名前・発送先のご住所・お電話番号・ご希望のプレゼント番号・クイズの解答・とさぶしを読んだのご意見やご感想、今後見てみたい特集テーマをご記入の上、下記の宛先まで締切日(令和5年6月20日)必着でお送りください。 〒781-0081 高知市北川添10-15 株式会社ほっとこうち



A BRAND NEW CHAPTER @KOCHI
TOSABUSHI

とさぶし

web
リニューアル!
見てちや!

<https://tosabushi.com>

発行

高知県文化生活スポーツ部文化国際課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号(本庁舎5階)

Tel 088-823-9793 Fax 088-823-9296

E-mail 140201@ken.pref.kochi.lg.jp

発行日:令和5年3月30日(季刊)

企画 とさぶし編集委員会

制作 ほっとこうち

バックナンバーの入手方法

お近くに配布先がない場合は、送付を希望されるバックナンバーの号数と部数、送付先、氏名、連絡先(電話番号)をご記入のうえ、送料分の切手をお送りください。受取次第、発送をいたします。
※連絡先は、バックナンバーの在庫がない場合や切手の過不足があった場合などに使用します。

【送料】

1冊 140円
2冊 180円
3冊 215円
4・5冊 310円

6冊以上の場合は、一度ご連絡ください。

お問い合わせ・送付先は、

高知県文化生活スポーツ部文化国際課(上記)まで。

Facebook、LINEでも情報配信中!



Facebook



LINE

とさぶし

と友達になろう!

特集

P02

牧野さん だいすき!

P04

牧野さんの影響で地元がまるごと植物園

P06

牧野博士の足跡を辿りたい

P08

アートの分野からも牧野博士にラブコール!

P10

なぜ今、牧野博士にメディアが注目!?

P11

博士が好みそうなグルメを開発!

P12

博士に倣って調査にも参加!

連載

P14

プライムトーク【塩田貴志さん】

P16

土佐おたからレシピ【いりもち】

P18

土佐の業 日々脈々【庭づくり】

P20

牧野さんのまち【佐川町上町地区】

P22

つないでつむいで 県史編さん室

P24

地元の文化施設が地域の歴史を紡ぐ

P26

昔々にあったとさ

次号予告

「高知の駅」

令和5年6月30日発行予定です。

お楽しみに!

※内容は変更になる可能性があります。予めご了承ください。

表紙イラスト/村上もとか